

編集後記

今号は特集「卒業研究最前線」として四本の力作卒業論文を採録することができた。それぞれの論文が学部四年間でどこまで到達することができたかを示してくれたと思う。また、今号から本誌をすべて大学HPに掲載することになった。ウェブにのることで、本誌がさらに多くの人目に触れることを願う。次年度も首尾よく本誌を刊行できた場合、ちょうど節目の一〇号になる。また、学部も創設から一〇年余が過ぎ、そろそろ次なる展開を真剣に考える時期に来ているだろう。ついでに自身自身の次なる展開もいろいろと考えたい。(石田記)

学生たちは四年間で何を学び何を身に付けて卒業するのか、ゼミ旅行で考えた。最終日の朝食には長い行列ができていた。ゼミ生たちは前日夜遅くまで語り合っていたので、私は一人で列に並んだのだが、某国の人たちが列をすり抜けていくため、なかなか進まない。やつと案内されたテーブルに料理を取って戻ってみると別の人が座っていた。思わず「My seat 二」と叫んでしまった。学生たちは道を間違えても慣れぬことに手間取っても人を責めず、他のメンバーを思いやり、春節で閉店している店が多くてもその場を楽しみ、私よりもうんと大人だった。(市川記)

本学に着任して以降、研究や教育以外の業務も経験し、大学教員は総合職だと改めて実感します。編集委員として、依頼の送付や原稿の受け取りを繰り返すうちに、人間科学部に関わる方々の想いや絆を感じることもできました。また、研究にとどまらず、活動の証や現在の想いを文章化することは、自分の活動や考えを他者に知ってもらえる機会となり、自らを省みる契機となるため、多くの方々人間科学研究をご活用いただければ嬉しいです。次号はどんな一冊になるのか、年度内の締め切り業務を棚に上げ、新年度を楽しみにしています。(江藤記)

今年も本誌を無事に発行できた。本学のみならず他大学でも、単独の学部でこうした雑誌を発行している例はそう多くないだろう。元々、学部全教員が参加する人間科学研究会が本誌のベースにあった。そこには二〇〇二年に人間科学部が開設された時の新しい学問的チャレンジという意気込みがあった。その後、諸状況の変化に伴い、本誌の性格も学術雑誌から人間科学部の「今」を広く発信する広報誌へと軸足を移してきたが、本誌を支える裾野は、教員から学生・院生、卒業生・修了生、職員へと広がっている。次号には、学生や院生にも企画・編集に加わってもらえることと期待している。(平等記)

人間科学研究 第9号

2015年3月15日発行

編集 『人間科学研究』編集委員会

石田 淳 市川 緑 江藤 幹 平等 文博

発行 大阪経済大学 人間科学研究会

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2丁目2-8

大阪経済大学人間科学部 市川研究室気付

TEL 06 (6328) 2431 (代)

印刷 大信印刷

〒531-0076 大阪市北区大淀中4丁目13-11
